

沖縄文化研究所

【2024 年度大学評価総評】

総合講座「沖縄を考える」について、春 14 回、秋 14 回を完全実施できたことは評価したい。しかし、社会人受講者については、コロナ前の目標と比較すると、3 分の 1 程度の達成状況であり、今後も積極的な広報活動などが望まれる。

科研費等への外部資金獲得については新規 1 件の獲得があったと報告されている。目標指標には申請数についての記載もあることも含め、積極的な外部資金獲得を実現するために、申請数についても継続的な管理を行ない、外部資金調達の活動の「見える化」を進めることが望まれる。

第三者評価について、運営委員会により、議論され、2023 年度は実施しないことが決議されたことを確認した。費用面の課題も上げられており、現状の運営体制も考慮して、今後、継続審議する課題であるかどうかを、十分に議論して結論に導いていくことが望まれる。

2024 年度の年度目標が、2023 年度の年度目標と、ほとんど同じである点が気にかかる。次年度以降については、目標の変更や、同じ目標であっても、達成指標の数値を具体的に吟味するなど、管理しやすい体制についても改善が望まれる。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学沖縄文化研究所規程（以下、研究所規程）および研究所ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/okiken/gaiyo/enkaku/ , https://www.hosei.ac.jp/okiken/katsudo/project/)	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
研究所規程。「2015 年度 第 2 回 運営委員会・所員会議 会議録」（2015 年 7 月 28 日）および「2015 年度 第 4 回 運営委員会・所員会議 会議録」（2016 年 2 月 24 日）	

基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 5 学生の受け入れ

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究倫理教育受講者名簿	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
総合講座「沖縄を考える A」および「沖縄を考える B」一般受講者記録。公開講演会を記録した研究所 YouTube 動画など	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）
総合講座「沖縄を考える」については、2023 年度に対面形式で再開しており、一般社会人の聴講も再開されていることから、ポストコロナのリカバリへの重要な取り組みの一環として評価される。2022 年度大学評価結果総評において課題と指摘されている外部資金の獲得について、「運営委員会の場合などを通じて応募・申請を奨励している」と適切に課題認識されており、「外部研究資金の確保」として年度目標に掲げるなど前向きに取り組んでいることがうかがわれる。これはぜひ結果に結びつけていただくとともに、定量的な評価をすることにより、どういった対策がどれくらいどう結果に結びついたかの検証に繋げていただきたい。第三者評価の仕組みの導入についても「運営委員会で検討中」とあり、課題認識されているとともに前向きに対応中と評価される。こちらも早い段階での実現に期待したい。

【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

- ・外部資金の獲得については、引き続き、運営委員会の場合などを通じて応募・申請を奨励しており、新たに『沖縄問題』認識構造の形成過程に関する実証的研究：中野好夫文庫史料による再検討（基盤研究(c) (一般)）が採択されている。
- ・第三者評価の導入については、2023 年度の第 6 回運営委員会（2023 年 10 月 18 日）においても審議し、①運営委員会と他大学の教員も出席する所員会議を併行開催しており、外部からの“眼”は機能している、②7 大学の研究所で構成される沖縄学研究機関所長会議でも意見交換や問題の共有を行なっている、③外部評価を実施する費用（評価者への謝礼）を捻出することは難しい財政状況にある、という 3 つの理由から同年度は実施しないことが承認されたが、今後も運営委員会で検討していきたい。

2 各基準の改善・向上

基準 6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動
中期目標	研究所創立 50 周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。 人文・社会の 2 つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。
年度目標	①対面形式で再開した「総合講座 沖縄を考える」の完全実施 ②外部研究資金の確保 ③LU 募金の PR と募集 ④運営委員の補充 ⑤研究所が所蔵する貴重文献のうちの「楚南家文書」に関する図書登録変更

	⑥第三者評価の仕組みの導入に関する検討	
達成指標	①は授業回数 ②は科研費および他の外部資金申請・獲得数 ③は募金額 ④は補充できた運営委員数 ⑤は法政図書館 OPAC における図書登録変更状況 ⑥は運営委員会での審議状況	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①予定した回数（春学期：14回、秋学期：14回）を完全実施した。 ②3件継続、1件獲得 ③816,500円（ただし2023年3月31日現在） ④1名を補充した。 ⑤複製本の登録変更作業は終了し、原史料のほうは作業を継続中である。 ⑥第6回運営委員会（2023年10月18日開催）において、i)運営委員会と他大学の教員も出席する所員会議を併行開催しており、外部からの眼は機能している、ii)7大学の研究所で構成される沖縄学研究機関所長会議でも意見交換や問題の共有を行っている、iii)外部評価を実施する費用（評価者への謝礼）を捻出することは難しい状況である、という3つの理由から、今年度は実施しないことが承認された。
	改善策	⑤に関連して、原史料に関わる継続中の作業の更なる進捗をはかる。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立50年を機としたHPなど広報・情報発信手段の拡充	
年度目標	①対面形式で再開した総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加拡大 ②研究所創立50年を機としたHPなど広報・情報発信手段の拡充	
達成指標	①は社会人受講者数 ②はHP更新状況など	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①延べ657名（春学期：299名、秋学期：358名）の社会人受講者があった。 ②適宜、見づらい、分かりづらいなどの箇所を修正した。
改善策	①に関連して、コロナ禍まえの目標であった延べ受講者2,240名（1回あたり80名×28回）以上を目指す。 ②に関連して、HPの一層の改善をはかる。	
【重点目標】 ・運営委員の補充 ・「楚南家文書」に関する図書登録変更 【目標を達成するための施策等】 ・学内専任教員で琉球・沖縄等を研究領域とする教員の探索と積極的な声掛け ・研究所研究助成金の獲得による確実な履行		
【年度目標達成状況総括】 年度目標——とくに重点目標——について次のことを行った。 ・現運営委員1名の今年度末での退職を踏まえ、運営委員1名を補充した。 ・「楚南家文書」に関しては、複製本の登録変更作業を終了した。 以上のことから、年度目標——とくに重点目標はおおむね達成したと言い得る。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	研究所創立50周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。

	<p>人文・社会の2つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。</p>
年度目標	<p>①総合講座「沖縄を考える」の完全実施 ②外部研究資金の確保 ③LU 募金の PR と募集 ④運営委員の補充 ⑤研究所が所蔵する貴重史料のうちの「楚南家文書」原史料の図書登録変更 ⑥第三者評価の仕組みの導入に関する検討</p>
達成指標	<p>①は授業回数 ②は科研費および他の外部資金申請・採択件数 ③は募金額 ④は補充できた運営委員数 ⑤は法政大学図書館 OPAC における図書登録変更状況 ⑥は運営委員会での審議状況</p>
評価基準	<p>社会連携・社会貢献</p>
中期目標	<p>総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立 50 年を機とした HP など広報・情報発信手段の拡充</p>
年度目標	<p>①総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加拡大 ②研究所ホームページなど広報・情報発信手段の拡充</p>
達成指標	<p>①は社会人受講者数 ②はホームページ更新状況など</p>
<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も 1 名が退任した（定年退職による）運営委員の補充 ・第三者評価の仕組みの導入に関する検討 ・「楚南家文書」原史料に関する図書登録変更 <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内専任教員で琉球・沖縄等を研究領域とする教員の探索と積極的な声掛け ・運営委員会での継続的審議および実施に必要な費用（評価者への謝礼）の工面 ・研究所研究助成金の獲得による着実な履行 	